

俺と雛祭り

book-fukunokami

俺と雛祭り

「月曜の俺は寝不足だ」

俺は黒い犬に向かって叫んだ。

「今朝は5時間半しかねてない」

犬はじっと聞いている。

「聞いてくれ、わんちゃん」

「聞いてるぞ、わん、5時間半も寝れたのかわん？」

「そうだ、5時間半だ、おや、たった5時間半だぞ、もしかして、これは、よく寝れたのか、いや、8時間がよく寝れた事ではないのか、わんちゃん？」

「そんな事より、今日は雛祭りだ、わん」

「そうだった、そうだった、わんちゃん」

そして俺と黒い犬は雛祭りの自分で作った歌を歌ったのであった。

「おい、わん、今日は短すぎないか、わん？」

「だって俺は寝不足なんだ、寝たいけど、寝れないんだ」

「なんだと、わん、寝たいのに寝れないのか、わん？」

俺は黒い犬の質問をはぐらかすように雛祭りの自分で作った歌をまた歌いだす事にした。

「また、歌かわん、しょうがないなあ、わんわん」

すると偶然通りがかった子供が喜んだのであった。